

様式C（介護ロボット等モニター調査事業 要望書）

令和6年7月9日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

(要望者)

〒252-0013

住所：神奈川県座間市栗原920-7

事業者名 ダブル技研株式会社

担当者所属 経営企画部

担当者名 和田始竜

電話番号 046-206-5611

電子メールアドレス [s-wada@j-d.co.jp](mailto:s-wada@j-d.co.jp)**介護ロボット等モニター調査事業 要望書**

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援・広報等一式の一環として行う「介護ロボット等モニター調査事業」について、下記の書類を添付して要望します。

## 記

1. 介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書
2. 会社概要（任意様式）
3. これまでの介護ロボット等に関わる開発実績がわかる書類（任意様式）  
※）実績がない場合は、提出不要

（本書類の取扱いと留意事項について）

- ご提出いただく「介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書」は、介護施設等とマッチングする際、当協会のホームページを通じて、介護施設等へ公開いたします。  
従って、記載する内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切なお協力がいただける介護施設等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 当協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を承っております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご留意ください。

## 介護ロボット等モニター調査事業 計画概要書

## 1. 申請者（企業）の概要等

企業名	ダブル技研株式会社	
担当者名	和田始竜	
担当者連絡先	住所	〒252-0013 神奈川県座間市栗原920-7
	電話	046-206-5611
	電子メールアドレス	<a href="mailto:s-wada@j-d.co.jp">s-wada@j-d.co.jp</a>
主たる業種	製造業、FA・自動化機器・福祉機器の開発・製造・販売、また卸売	
主要な製品	D-Hand、GOCOOL、新心語り、アシスタンド3、Obi	
希望する施設等の種類や職種等 希望施設に☑を入れてください 複数選択可	<input checked="" type="checkbox"/> 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム <input checked="" type="checkbox"/> 介護老人保健施設：老人保健施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護：グループホーム <input checked="" type="checkbox"/> 特定施設入居者生活介護：有料老人ホーム、軽費老人ホーム、養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、地域密着型特定施設入所者生活介護 <input checked="" type="checkbox"/> 居宅介護サービス：訪問介護、看護、デイサービス、リハ、福祉用具貸与サービス事業者、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護 等 <input checked="" type="checkbox"/> ショートステイ <input checked="" type="checkbox"/> 障害者福祉施設 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関：介護療養型、介護医療院、病院、リハビリテーションセンター 等 <input type="checkbox"/> その他：（ ）	
その他の希望		

## 2. 試用介護機器の概要（可能な限り詳しくご記入ください。）

機器の名称（仮称）	食事介助ロボットObi（オビー）
機器の概要 (写真を添付すること)	<u>想定する使用者、使用場面</u> 上肢機能障害や麻痺などで自分おひとりでは食事を摂る事が困難な方が対象。 いつもと同じ食事のテーブルに置きスイッチを設置するだけで自立した食事が可能。
	<u>機能と使用方法、有用性</u> 身体機能に合わせて適したスイッチを使い、自分のタイミングで4つのお皿の中から、食べたいものを選び、好みに食べることができる。ユーザー目線ではQOLの向上、支援者目線では介護負担の軽減に繋がると考えられる。
	<u>類似する機器との相違</u> 現在、国内では類似する機器は存在しない。
	<u>当該機器と介護業務との関連性</u> 今までは介護者が付きっきりで対応していた場合でも、当該機器がある事で目の届く範囲にさえいれば別の作業をしたり、食事介助に要していた時間や負担を減らせる。

現在の開発状況と課題	<p>機器に関するリスクアセスメント（性能安全と利用安全の確保対策）</p> <p>※アセスメント結果を添付して下さい。</p> <p>嚙下、認知に不安があるユーザーにおいては対象とならないので、本機の使用を絶対にしない。というのが第一のリスクアセスメントとなります。</p>
	<p>社内や社外モニター調査の実績</p> <p>※実績ありの場合は、その結果を添付して下さい。</p> <p>2024年4月から発売したばかりでありますので、国内における実績の蓄積はまだこれからとなります。</p>
	<p>開発に関する当面の課題</p> <p>お皿を選ぶ周回回数の最適化調査、日本の食事文化における本機の掬い動作の検証、スプーン形状の再検討、新機能の追加など、日本独自の現場による必要機能を調査し課題として掲げ開発に取り込んでいきます。</p>

### 3. モニター調査の概要

1. 調査のねらい	<p>どのようなユーザー、またどのような介護現場にとってが、本機がより有効で、適しているのか、実際の食事現場の中で検証を実施したい。</p> <p>また、スイッチや必要な付属品、前後の流れの中でどのくらい介護負担が変わるのか定量的に検証を実施したい。</p> <p>食事動作の部分自立、QOLの向上、介護費の軽減（利用者と国の双方）などについて、公に示せるようなデータを取っていきたい。</p>
2. 調査概要	<p>1) 調査対象： 介護施設、障害者施設、病院 等</p> <p>2) 調査したい場面、場所： 3食の食事場面、いつもの食事テーブル</p> <p>3) 調査期間（日数）： 1ヶ月～2ヶ月程度</p> <p>4) 機器の台数： （まずは）1台</p>

### 4. モニター調査の実施手法（協力施設等へお願いしたい内容）

※本書のP9～10を参考にモニター調査の具体的な実施方法を記載してください。

注）5つの項目全てを行う必要はありません。（実施しない項目は「特になし」としてください。）

※モニター調査検討委員会等の審議により採択された場合には、当協会及び専門家によるアドバイスをを行います。

1. 利用対象者の適用範囲に関すること	<p>【調査手法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>観察法 <input checked="" type="checkbox"/>インタビュー法 <input type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【想定する調査方法】</p> <p>実際には貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>
---------------------	--

2. 利用環境の条件 に関すること	<p>【調査手法】  <input checked="" type="checkbox"/>観察法 <input checked="" type="checkbox"/>インタビュー法 <input type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【想定する調査方法】          実際には貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>
3. 機器の利用効果 に関すること	<p>【調査手法】  <input checked="" type="checkbox"/>観察法 <input checked="" type="checkbox"/>インタビュー法 <input type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【取得指標】          i 被介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上）  <input checked="" type="checkbox"/>要介護度 <input checked="" type="checkbox"/>ADL <input checked="" type="checkbox"/>IADL <input checked="" type="checkbox"/>LSA <input checked="" type="checkbox"/>日常生活時間 <input checked="" type="checkbox"/>QOL  <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>ii 介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上）  <input type="checkbox"/>腰痛等の有無 <input checked="" type="checkbox"/>介護負担指標 <input checked="" type="checkbox"/>ストレス指標 <input type="checkbox"/>生体情報  <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>iii 介護サービス提供全体の流れ  <input checked="" type="checkbox"/>プロセス全体の時間 <input checked="" type="checkbox"/>人員構成 <input checked="" type="checkbox"/>職務タイムスタディ法  <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>【想定する調査方法】          実際には貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>
4. 機器の使い勝手 に関すること	<p>【調査手法】  <input checked="" type="checkbox"/>観察法 <input checked="" type="checkbox"/>インタビュー法 <input type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【想定する調査方法】          実際には貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>
5. 介護現場での利 用の継続性に関す ること	<p>【調査手法】  <input checked="" type="checkbox"/>観察法 <input checked="" type="checkbox"/>インタビュー法 <input type="checkbox"/>質問紙法 <input type="checkbox"/>その他：</p> <p>【想定する調査方法】          貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>
6. その他	<p>貴協会、専門家の方にアドバイスを頂きながら具体的な検討と最適な調査を実施させて頂きたい。</p>

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。

## 【会社概要】

ダブル技研株式会社は、

工場、生産現場における自動化、FA化機器に関わる「ものづくり」、  
また重度障害者向けの意思伝達装置や各ICT機器の開発や販売など、  
ロボットと福祉それぞれをキーワードとした事業を47年間行ってきました



今まで培ってきたスマートな閃きと独自技術を元に、  
世界に誇れる次世代の製品・サービスを生み出し続け、  
人とロボットが共存する未来を実現していきます。